

福岡県立直方高等学校 令和元年度学校関係者評価書
福岡県立直方高等学校関係者評価委員会

学校経営方針（４月）			評価 (総合)	
学校教育目標	教育基本法及び福岡県教育目標並びに「鍛ほめ福岡メソッド」に則り、平和で民主的な国家及び社会の形成者にふさわしい意思と実践力を備え、創造性豊かな人材の育成をめざすとともに、志をもって意欲的に学び、自律心と思いやりの心を持つ、たくましい生徒を育成する。特に文武両道を志し、校訓である、礼節を重んじ、努力を惜しまず、理想を追求する人材の育成に努める。			
昨年度の成果と課題	本年度重点目標	具体的目標		
昨年度は、「守破離」のスローガンのもと、全生徒、教職員が、一丸となって、目標達成に向けて努力し、学習、進路、学校行事、部活動等で大きな成果をあげる教育をめざした。また、各運動部活動の活性化で成果を残すことができた。文化部においても自然科学同好会が九州大会出場の快挙を果たした。本年度は学校創立110周年のアニバーサリーであり、学校の将来ビジョンを「志の実現に向けて努力を続け進取の気鋭を有する人材を育成する」とし、「Be Active」を生徒スローガンとして掲げた。特に、自己実現に向け主体的に学ぶ生徒を育成するため、教職員が一丸となって目標達成に向けて努力し、学習、学校行事、部活動等で大きな成果を目指すとともに、志願者確保に向けた取組に尽力する。	「主体的な学びをとおして、自己を表現することができる生徒の育成を目指す」 「あなたの志に応えます」 「あなたを鍛えて伸ばします」 「あなたを立派に育てます」 ※学校創立110周年に係る学校行事を主として、生徒の主体性を育む教育活動を推進する 1 生徒の個性・適性・能力・進路希望等を把握し、きめ細かい学習指導で学力を高める 2 教職員相互の信頼と生徒との心のつながりを深め、学習、生活両面の基本的習慣の確立と自己管理能力の向上、規範意識の高揚に努める 3 あらゆる機会を通して、生命と人権を大切に作る学校づくりを推進する 4 奉仕活動に関心をもち、社会的貢献をしようとする態度を育成する 5 学校の情報を積極的に発信し、保護者や地域の信頼に応える学校づくりを推進する 6 防災教育、安全教育の徹底を図り、事故・災害の防止に努める	1 授業の充実と評価方法の改善 ・本時の目標の明示とまとめの時間の設定 ・ICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫と改善 ・教科横断的な視点に基づくカリキュラム・マネジメントの充実 2 直高生としての誇りを高める生徒指導の充実 ・基本的生活習慣（時間厳守・挨拶・美化活動の励行）の確立 ・活力ある特別活動と部活動の推進（目的・目標の明確化） 3 進路意識の高揚と希望進路の実現 ・系統的なキャリア教育の充実 ・個人の進路目標や学力に応じた課外授業の充実 4 自他の生命を尊重する人権教育の推進 ・教育活動全体を通じた人権教育や情報モラル教育の推進 ・生徒情報の共有と教育相談体制の充実、特別支援教育の推進 ・いじめを決して許さない意識や態度の育成 5 開かれた学校づくりの推進と関係機関等との連携強化 ・学校ホームページの充実と学校自己評価の公開 ・地域の小・中学校や高校との連携強化		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）	次年度の主な課題
教科指導	基礎学力の向上	課外授業に頼らない、基礎学力の向上。 進級・卒業を踏まえた学習指導。 主体的・対話的で深い学びが行える環境整備。		
	教育の情報化の推進	授業教材のデジタル化と学年を越えた共有を行う。 生徒指導要録の電子化に向けた取り組みを行う。		
	教務規定の精査	コース選択と評定、(推薦)進学の関係性を点検する。 帰国生徒等に対する取り組みの充実。		
生徒指導	学校行事の活性化	各行事の早期立案・提示を行う。 学校行事に生徒会組織を積極的に参画させる。		
	分掌内外の連携	指導の経緯の報告を徹底し、生徒の情報交換を積極的に行う。 学年や他分掌からの要望等を反映する機会を増やす。		
	いじめ防止	生徒の変化を見逃さない教師間の連携、情報共有を積極的に行う。 いじめ防止、起きた場合の対処などについての共通理解を図る。		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）	次年度の主な課題
進路指導	適正なキャリア発達を促進する	より低学年からキャリア意識を高め、進路実現への高い目標を設定させる。 本校の実態に合ったガイダンス・セミナーを精選・実施する。 論文・論述、またポートフォリオ評価をさらに充実させ、記録を蓄積する。		
	進路実績を伸長する	多様な進路希望に対応できる職員の進路指導力を向上させる取組 入試問題や学校案内など進路に直結する資料の閲覧を促進し、進路意識を高める。 模擬試験対策・分析・情報共有を行い、組織的な指導の共有化を図る。		
	新しい動向に対応しする	課外・土曜講座・夏季冬季講習などのより適正で効果的な運営を目指す。 大学入試改革に関する情報を共有するとともに、組織的な対応を行う。 英語科と連携し、入試に関する英語の外部試験への対応を、校内で整備する。		
環境保健	生徒支援の充実	hyper-QUやサポートヒントシートを使用した生徒理解を通して、不登校などを予防する。 学年コーディネーターを中心として生徒支援領域と連携を図り、問題解決策までを練る。 安心して学校生活を送れるような保護者に対する働きかけを行う。		
	環境美化の向上	クラス減に伴い、掃除区域の見直しを行う。 美化コンクールの取組が、全校生徒の美化意識向上につながるようにする。 ゴミ分別の徹底。		
	食育の推進	食育講演会の実施。 食堂メニューの改善を図る。 食堂との連携。		

自己評価に対する学校関係者評価委員会の評価	
評価 (総合)	自己評価は
	<p>A 適切である</p> <p>B 概ね適切である</p> <p>C やや不適切である</p> <p>D 不適切である</p>
項目ごとの評価	学校関係者評価委員からの意見
項目ごとの評価	学校関係者評価委員からの意見

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員からの意見
研修図書	授業改善のための研修の実施	「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業の取り組みを継続的に行う。 公開授業を年1回実施、授業改善につなげる。 授業アンケートを適宜実施して生徒の学習実態を把握し、授業方法の改善を考察する。 校内研修会を年5回(予定)実施し、多面的な内容により教員としての資質向上を図る。				
	職員研修の充実	ICT教材の活用に向けた研修の検討・実施を行う。 校外研修会への積極的参加を呼びかける。				
	図書館利用の活性化	図書委員会のお勧め本を2ヶ月に1回紹介するなど、図書委員会活動を活性化させる。 各教科と連携して選書の多様化を図ることで、全校生徒の読書意欲の喚起を図る。 研修図書部と1学年国語科とで連携し、3月にかかる会を実施する。 教職員の人権感覚を高めるような職員研修を工夫する。				
人権教育	人権・同和教育LHRの改善を行う	できるだけ生徒の実態に応じた、柔軟な教材の工夫に努める。 「かがやき」、「あおぞら2」、「わかった2」の教材活用の方法を探る。 「振り返りシート」を行い、日常生活での人権課題を把握し、指導に生かす。 いじめのアンケートに関する効果的な活用方法を検討する。 LHRにおいて、ポイントを絞ったワークシートや講話の在り方を検討する。 不登校生徒の欠課時数の早めの情報共有に努め、保護者支援の観点からも、家庭との連携に努める。				
	生徒間に起きている人権に関わる事象を把握し、その課題に対応できるよう、指導内容・方法(講話やワークシート)を検討していく	関係機関やSC、SSWとの連携を深める。 授業担当者や学年など学校全体に広げるための情報共有の方法を模索する。				
	修学支援委員会の運営を、報告だけにとどまらないよう工夫していく	丁寧な指導の様子が伝わる広報を、中学生・保護者の対して行う。 生徒や保護者の声を集め、本校の魅力が伝わる学校案内を作成する。 最新の学校紹介用のスライド・DVD等を作る。 関連部署と連携し、儀式・行事が円滑に行われるように工夫改善を行う。 年間の奨学金の種類を提示して、組織的に奨学金業務を行う。 個個人が高い防災意識を持つよう、防災避難訓練の内容を工夫する。 メールでの案内を利用し、PTA会議の案内が保護者に確実に伝わるようにする。 PTA総会当日の行事内容改善を行い、参加者増加を目指す。 PTA活動の内容紹介を工夫し、積極的な行事参加を促す。 5分前集合を徹底させる。				
広報庶務	広報活動の活性化を図る	最新の学校紹介用のスライド・DVD等を作る。				
	庶務業務を充実させる	年間の奨学金の種類を提示して、組織的に奨学金業務を行う。 個個人が高い防災意識を持つよう、防災避難訓練の内容を工夫する。 メールでの案内を利用し、PTA会議の案内が保護者に確実に伝わるようにする。				
	PTA活動の活性化を図る	PTA総会当日の行事内容改善を行い、参加者増加を目指す。 PTA活動の内容紹介を工夫し、積極的な行事参加を促す。				
第1学年	基本的生活習慣の確立	教員間の連絡を密にして、情報の共有を徹底させる。 始業・終業時の丁寧な挨拶と、「静止礼」の徹底。				
	学習意欲の向上	教務部・キャリア教育部と連携し、大学入学共通テストにおける詳細情報の共有と対策をたてる。 生徒に常に目標を持たせ、可能性への挑戦を続けさせることで「あきらめさせない指導」を実践する。 1学期中に高校卒業後の自分の希望進路を確立させ、今自分が成すべきことを考え、実行させる。 担任のみならず副担任・学年所属の先生方への情報伝達の徹底させる。 中学校・小学校との情報交換を密に行い、今の生徒の状況を常に把握し続ける。 生徒の状況で気になる点があれば、家庭への連絡・相談を即座に行い、保護者との信頼関係を強固なものとする。				
	教員間の情報共有、共通認識、協働体制の強化	具体的な進路を早期に決定しそれぞれの進路について調べ学習を行わせ、進路設計を明確にさせる。 目標設定を短いスパンで具体的にさせる。 ポートフォリオを活用し、短いスパンでの目標設定や結果・活動の記録等を記録させる。 行事等を活用して集団への所属意識を涵養する等、忠恕の精神を育成する。 教員団が協力しやすい雰囲気を作って一貫した指導を行うことにより、授業規律を徹底させる。 個人面談を充実させ各生徒の課題を教員間で把握して、共通認識を持って指導に当たる。 行事等において、生徒会役員を中心に生徒主体で活動させる。 特定の生徒だけでなく、多くの生徒が活躍できるように配慮する。 基本的生活習慣を重んじ落ち着いた学校生活を送らせることにより、リーダーシップを発揮しやすい集団の雰囲気作りを努める。				
第2学年	主体的に学ぶ態度の育成	具体的な進路を早期に決定しそれぞれの進路について調べ学習を行わせ、進路設計を明確にさせる。 目標設定を短いスパンで具体的にさせる。				
	協働的に学ぶ態度の育成	ポートフォリオを活用し、短いスパンでの目標設定や結果・活動の記録等を記録させる。 行事等を活用して集団への所属意識を涵養する等、忠恕の精神を育成する。 教員団が協力しやすい雰囲気を作って一貫した指導を行うことにより、授業規律を徹底させる。 個人面談を充実させ各生徒の課題を教員間で把握して、共通認識を持って指導に当たる。				
	リーダーシップの育成	行事等において、生徒会役員を中心に生徒主体で活動させる。 特定の生徒だけでなく、多くの生徒が活躍できるように配慮する。 基本的生活習慣を重んじ落ち着いた学校生活を送らせることにより、リーダーシップを発揮しやすい集団の雰囲気作りを努める。				
第3学年	安心で安全な学年・学級づくり	進路面談を含めた個人面談を充実させることにより、課題を抱える生徒への早期対処に努める。 学校ポータルサイトを活用し、学年、保健室、教科担当、部活動顧問での情報共有強化をはかる。 奨学金等の進学時に必要な経済的支援情報の早期提供を行い、家庭との連携を図る。				
	「学ぶ力」の向上と進路実現	調査、外部模試毎の具体的な個人目標設定と振り返りを行い、生徒による自己評価のサイクルを作る。 タイプ別に応じた進路指導の充実と、指導する教員のスキルアップを図り、個に対応できるシステムを構築する。 Wi-Fiやプロジェクター等のICT機器を課外授業にも活用し、効果を高める。				
	直高生としての誇りと、最上級生としての意識の涵養	110周年記念式典に向けて、最上級生としての自覚を持たせる。 部活動と学習の両立実現に向け、学習時間の確保や効果的な学習方法などの具体的手立てを立案する。 生徒が各学校行事等において最上級生としてのリーダーシップ発揮できる仕掛けを多く準備する。				
スポーツ科学コース	スポーツ科学コースの生徒としての自覚と責任感の育成	人間力、自立的活動力、未来への責任を持つ生徒育成に努める。 日々の学校生活において、挨拶・立ち振る舞いなど、学校をリードする生徒の育成に努める。 第一進路希望の実現のため、人一倍努力させる。				
特進クラス	学習面で学年を牽引する生徒の育成	学習意欲や進路意識向上に向けた取組や方策を講じる。 課外受講、資格取得などを奨励し、第一進路希望実現のための支援を行う。				